

膝周囲炎腱症・腱付着部症の治療

○金森 章浩 (かなもり あきひろ), 田中 健太, 吉岡 友和, 谷口 悠, 梶原 将也,
山崎 正志

筑波大学 医学医療系整形外科

靭帯・腱付着部症は繰り返しの過度な力学的負荷によって付着部の構造上の破綻が引き起こされた結果おこる障害であり、通常の治癒機転が障害され、その結果正常腱組織の変性をきたす。膝関節周囲の靭帯・腱付着部症として代表的なものはジャンプ動作のくり返しによる膝蓋腱炎（ジャンパー膝）である。膝蓋腱炎の痛みの原因は炎症にともなうプロスタグランジンの放出のみでは説明できないことも多く、変性組織内の新生血管や神経終末増生が原因である可能性が指摘されている。したがって初期には局所安静や消炎鎮痛剤が有効であることは明白であるが、進行例では通常安静のみでは症状の改善が得られない。ほとんどの症例は手術治療を要するほどの症状ではないため、腱再生と異常な神経破壊を期待した保存治療が試みられている。われわれは運動療法としてはエクセントリックエクササイズを用いているが、難治例やシーズン中の選手には体外衝撃波療法や多血小板血漿注射をおこない、疼痛を軽減させ競技復帰を目指している。本シンポジウムでは膝蓋腱炎に対するわれわれの治療アプローチを紹介する。